



水と衛生月間

JOIN LEADERS
EXCHANGE IDEAS
TAKE ACTION

Mataram Yogyakarta RC

CONTENTS

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. ガバナーメッセージ …………… 1 | 6. 米山梅吉記念館便り …………… 12 |
| 2. ロータリーモーメント …………… 3 | 7. 地区通信 …………… 13 |
| 3. ロータリーコラム …………… 5 | 8. 2016年12月会員数の増減および出席率 14 |
| 4. ロータリーの歴史 …………… 8 | 9. 2016-17年度12月会員の動き …………… 裏面 |
| 5. ロータリー情報 …………… 11 | |



人類に奉仕する
ロータリー

2016-17年度
国際ロータリー会長
ジョン F. ジャーム



2016-17年度 第2650地区

刀根 荘兵衛 ガバナー メッセージ

人類に
奉仕する
ロータリー2650地区 ロータリークラブ
会長・幹事の皆様へ

謹啓

漸く春めいて参りました。会長、幹事の皆様にはいかがが過ぎでしょうか。早いもので今年度も残り4カ月を残すのみとなり、いよいよ田中ガバナー年度へ向けて、会長エレクト研修セミナー（PETS）や地区研修・協議会が開催される頃となって参りました。

皆様のクラブに於きましても、次年度へ向けての準備がそろそろ始まっていることと存じますが、この残された4カ月間をゴールに向けて最善を尽くして、素晴らしい年度を締め括って戴きたいと存じます。よろしくお願い致します。

さて、3月は**水と衛生月間**となっています。日本のように、水が豊富で衛生水準も高い国ではあまり実感できないことかもしれませんが、世界では「命を救うきれいな水」を心より求めている地域が今も多く存在します。特に発展途上国では、今も汚染水により命を落とす子どもが後を絶ちません。きれいな水は人間が健康に暮らすための第一条件です。

毎年250万人の命を救うため、ロータリーはきれいな水の提供に力を注いでいます。

世界には、きれいな水を利用できない人が7億4800万人、汚染水による下痢性疾患で命を落とす子どもが毎日3,000人以上いると言われていています。このような現状を受け、ロータリーは世界各地できれいな水をもたらすための多くのプロジェクトを実施しています。

例えばガーナでは、ロータリーの補助金を活用し、会員が複数の村に20以上の井戸を設置したほか、30の井戸が修復されました。さらに、治療しなければ障害や死にいたる伝染病、ブルーリ潰瘍に関する教育と治療も行っています。この活動で、7万人近い人びとが恩恵を受けています。

私自身のささやかな国際奉仕の経験を申し上げます

と、雨水を貯めて浄化して飲料水にする設備やトイレやシャワーなどの衛生設備の改善は、東南アジアの山間部ではかなりニーズのある奉仕活動になるのではないかと考えております。是非「水と衛生」に関するRIのロータリーショーケースやアイデア応援サイトなどから情報を探し出し、財団補助金を活用しながら、人道的奉仕活動にチャレンジして戴ければと思います。

3月13日は世界最初のローターアクトクラブが認証された日となっています。1993年、RIはローターアクト創立25周年を記念して、この3月13日を含む1週間を「**世界ローターアクト週間**」(World Rotaract Week)と決めました。この1週間には世界中のローターアクターやロータリアンによって記念行事やプロジェクトが行われ、ローターアクトクラブと提唱ロータリークラブが協力して、地域社会でローターアクトを推進する絶好の機会となります。また、このような交流を通じて、ロータリアンは、ローターアクターから、若いエネルギーや新しいアイデア、労力を得ることができます。一方ローターアクターたちも、ロータリアンから深い知識や経験を学ぶことができます。

ところで、このローターアクトに関して、2016年RI規定審議会で大きな規定変更がありました。一言で申し上げますと、ロータリーの会員身分の規定が簡素化されると共に、ローターアクターが同時にロータリークラブ会員となるのが可能になったのです。

ローターアクトを取り巻く環境が急激に変化する中で、私ども2650地区のローターアクトクラブにも大きな課題が横たわっているように思います。地区内の提唱ローターアクトクラブは現在、30クラブであります。その内3クラブが休会（正式はそのような制

度はありませんが)となり、また全体の会員数も2百数十名に減少致しております。課題はやはり会員増強であり、またアクターの在籍年数が平均2、3年と少ないことではないかと思えます。これを少しでも改善するためには、クラブ活性化のための将来ビジョンづくりが不可欠ではないかと思えます。皆で車座になって、徹底的に夢と希望を語り合いながら、一步でもその実現を進めて戴かなければならないと思えます。

あくまで主役はローターアクターであり、主人公意識をもって、自らが行動を起こして、クラブの課題に取り組んで戴きたいと願っております。その力を横からそっと支え、応援するのがロータリークラブであり、地区であると信じております。

また、かつてローターアクト、インターアクト、青少年交換、ロータリー財団、米山奨学会等のプログラムと関わりをもって戴いた皆様を中心に、地区内に新たにロータリー学友会を結成する動きを加速致しております。折角結ばれたロータリーとのご縁をこれからも大切に継続しながら、絆を深め、アイデアを交換し、奉仕を実践し、今後ロータリーファミリーとしてフェロシップと喜びを実感できる場を提供できればと願っております。

本年度はロータリー財団誕生100周年にあたりますが、その記念事業として、昨年11月2日から8日まで地区内全クラブに呼びかけ、合同事業としてポリオミッションを実施して参りました。今回、財団100周年記念事業ということもあり、地区内の26クラブ様から、近年では最高の62名の参加者を得て、ラオス共和国におけるポリオワクチン接種とラオスの子供たちへの教育支援を実施することができました。

ちょうど昨年、ラオス共和国は、ワクチン由来株I型のポリオが発生したこともあり、ポリオワクチン接種率向上は喫緊の課題でした。今回、ラオス保健省の全面的な協力を得て、その発生地域を中心に大々的なポリオワクチン一斉投与と教育支援活動を行いました。今回の一斉投与は2か所。首都ヴィエンチャンからバスで3時間以上離れたヴィエンチャン県ファン郡バスン村の集会場、もう一か所は飛行機とバスを乗り継いで半日かけたサイニャブリ地区サイニャブリ総合体育館の会場で、合計約900人の子供達に経口投与をすることができました。その後、私たちのワクチン投与活動が功を奏してか、現在は、ポリオが終息状態であるとの嬉しい連絡もWHOから戴きました。

国際ロータリー第2650地区では、1995年より21年間に亘り、世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務所(WPRO)の協力を得て、東南アジアや西太平洋諸国を中心にポリオワクチンの投与活動を行って参りました。

毎年、多くのロータリアンが長い時間をかけて現地へ赴き、子供達に直接2滴のポリオワクチンを経口投与してきました。お金による寄付だけでなく、ロータリアン自らが汗を流して行う奉仕活動は、私たち2650地区のロータリアンが世界に誇れる素晴らしい奉仕活動だと認識致しております。

過去21年間、2650地区内ロータリアンから2億円を超える浄財が提供され、毎年のポリオワクチン投与活動とともに現地の子供たちの識字率の向上や保健衛生の改善などに寄与して参りました。

お陰様で、2000年には西太平洋地域のポリオフリー(無発生地域)が宣言され、野生株は根絶されました。しかし、アジア・西太平洋地域には、まだまだワクチン接種率の低い地域もあり、世界から完全にポリオが根絶されるまで、ワクチン接種率を高く維持しなければなりません。

2016年の規定審議会で、「**ポリオ撲滅は国際ロータリーの最高の目標であることを承認し支持する件**」が圧倒的多数で可決され、ポリオ撲滅達成まで、ロータリーは組織を挙げて推進していくことが確認されました。

今後、私たちは2018年度のポリオ撲滅を目指して、なお一層努力しなければなりません。皆様のポリオプラスに対するご支援とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、これから本年度末までの4ヶ月は、クラブ様の当初のご方針をもう一度振り返る大切な時期となります。各クラブ様の目標達成に向けてラストスパートをお願いしたいと存じます。そして、次年度への引継ぎをしっかりと戴き、有終の美を飾って戴きたいと願っております。

来月はいよいよ地区大会です。皆様とお目に掛かれますのを楽しみに致しております。

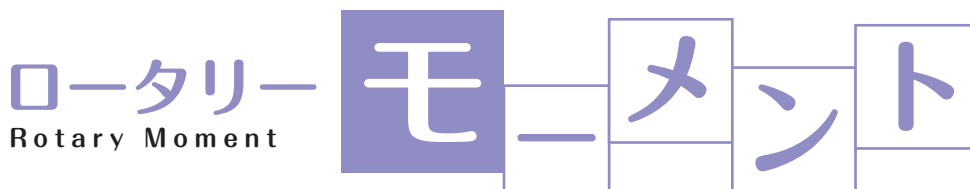
謹言

2016-17年度ガバナー

刀根 莊兵衛

幸福になりたいと思ったら、そのために努力しなければならない。無関心な傍観者の態度を決め込んで、ただ扉を開いて幸福が入ってくるようにしているだけでは、入ってくるのは悲しみでしかない

アラン (フランスの哲学者)



私のロータリーモーメント

2016-17年度 地区ロータリー情報委員長
高橋 行雄（舞鶴東RC）

「心に残るロータリーの体験」のことを、「ロータリーモーメント」というそうだ。入会以来33年、年数ばかり増えてはいるけど、これといって自慢できる活動歴があるわけでもないの、お前の「ロータリーモーメントは何か」と聞かれても、正直言って困る。33年間もロータリーにいれば、あれこれ浮かぶことは多いが、「あの出来事だけは特別だ」というものを何か一つ今選び出すことはできにくい。クラブでの親睦行事、青少年奉仕での若者たちとの交歓、交換学生やGSEの若者をホームステイで受け入れたこと、海外クラブでのメークアップ、国際大会参加、クラブ会長や地区委員の経験、などなど貴重な体験は数多いが、どれか一つを特別に選ぶことはできない。強いて自分なりにロータリーモーメントと考えることを挙げると、それは特定の何かではなく、毎週の例会や様々なロータリー行事に参加して、国内外の多くの魅力ある人達と出会い、世界の人々と共有している価値観を知り共感し、いろいろの役割を務める機会をえて自分なりの勉強をさせてもらってきたこと、つまりロータリアンであることを実感して楽しいひと時を過ごしてきたことが、自分にとってのかけがえのないロータリーモーメントの数々であった。これまでもそうであったように、これからも、社会が変わり、ロータリーが変わり、自分も変わっていくなかで、どのような新しいロータリーモーメントに出会えるのか、楽しみだ。

私のロータリーモーメント・春はときめきの季節

2016-17年度 地区ローターアクト委員長
宮本 研二（京都西RC）

身体の芯から凍るような底冷えの冬の京都から、梅の香りが漂い、都大路に桜の花が咲き乱れる1998年3月30日京都西ロータリークラブの例会で、私の胸に初めてロータリーバッジがつけられ、ロータリアンとして第一歩を踏み出して以来早いもので18年もの月日が経ちます。

この時期になると、入学式や入社式があり、それとわかる初々しい人たちの春の風物詩を街角で見ると懐かしく、18年前の期待と少し不安がよぎる緊張の入会式を思い出します。

入会して最初に配属されたのが定番の親睦活動委員会、例会時に肩からタスキをかけ、受付として先輩会員の顔と名前を憶えるのに苦勞をした事や、間違えずに来客紹介をする時の緊張感を昨日のこのように思

い出されます。

今から思えば今日まで月曜日の例会に出来るだけ休まずに出席した事が、後々の私のロータリーライフの原点を形作ってくれたように感じます。

毎年春先になると提示される次年度の新しい委員会には、どんな経験、体験が待ち変えているのか、気持ちをリセットしリフレッシュするのに、またとない季節でもあります。

結びに私の心に残る最新のホットなニュースを一つ、2016年の風薫る3月18日から4日間第28回全国ロータリーアクト研修会・第13回アジア太平洋地域ロータリーアクト会議が国立京都国際会館等で1300名以上の内外のロータリーアクトが一堂に会して盛大に開催され、当地区のアクトー達がホストとして見事にやりきってくれました。

彼らがこの経験を通して何を感じ何を学びとるのでしょいか、アクトー達の成長とアクトクラブの組織体としてのより一層の発展を心から願うものです。

桜の咲く頃になれば18年前のロータリアンになった、あの時のときめき感を思い出し、いつまでも忘れずに持ち続けたいと思う。

私にとってのロータリー

2016-17年度 ガバナー補佐
吉田 近博（高島RC）

私にとって記憶に残る年度といえはなんとといっても会長をさせていただいた時です。経験者をご存じのように年度は1年ですが前年の準備を入れますと約2年近く責任を受け持つこととなります。指導される立場から指導する立場に変わる訳ですから自分の知識の範疇を超えた自分なりのロータリーの棚卸しが必要となります。またそれは同時に人間としての自分自身の棚卸しでもあります。緊張感をもって迎えた本番の1年も過ぎてみればあっという間の出来事です。私の中では財団の申請をした事業で山の遭難を回避するために看板を作成しそれを我々メンバーが汗だくになり苦勞しながら山へ登り、下見も含め手作業で設置をしにいったことがとても印象に残っています。当時山での遭難が相次いでいたため余計に感慨深いものとなり、その年度は私にとってハードルは高いがその高さをメンバーの皆さんと共有でき心地よい記念すべきロータリー年度となりました。

補佐を受けて最初の補佐研修が堀場バスターガバナーのお話でした。そのとき「ロータリーはおもしろくなければやめたらいい」とおっしゃっていました。私もそのとおりだとおもいます。自分に本当にあわなければ貴重な時間と費用と労力をかける必要はないとおもいます。ただ入会して幾年か経つなかで、何らかの責任ある役割を与えられ積極的に行動し、例会はもちろん会合、事業、懇親会にも参加しやるべき事をやり終えた後で結論を出されるべきだとおもいます。ロータリーの価値は人によって様々です。そしてその価値は自分で機会をつくって自分で見つけるべきだとおもいます。だれも最初からロータリーのことをわかって入会してくる人はだれもいないはずで。ただ単に好きで集まってくる目的以外の何かをロータリーで発見した時にロータリーは楽しみに変わって行くとおもいます。私がそうであったようにハードルが高い事業程共に記憶に残る度合いも高くなるものです。これはロータリーに限ったことではないとおもいます。

ロータリーコラム

第9回

2016-17年度ガバナー
刀根 莊兵衛



ロータリーにおけるリーダーシップの考察

リーダーという言葉は誰でも理解できるのですが、リーダーシップという言葉になると少し日本語になりにくい概念となります。もともとリーダーシップという言葉は軍隊を想いのままに動かす軍事的な意味でつかわれたようですが、現在では、これはトップに限らず組織構成員すべてが、いま自分が何かをしなければならなかったとき、自らの旗を掲げ、周囲に働きかけていくことを意味しているようです。

日本でリーダーと言えば、カリスマ的な指導者、たとえば、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの戦国武将、あるいは、近年の経営者であれば、本田宗一郎、松下幸之助を、スポーツであれば有名なプロ野球の監督の名前を思い浮かべる人が多いでしょう。そのようなリーダー像しか想像できない日本人にとっては、近年、欧米の企業や組織がリーダーシップ研修を声高に騒ぐことに中々理解できない。ましてや、ロータリーのような奉仕団体がリーダーシップ研修などということは尚更理解しがたいということかもしれません。しかも日本においては、ロータリーと言う組織自体が、各界のリーダーの集まりと自負しているため、今さらそんなリーダー達にリーダーシップ研修などは不要と言うことになるのかもしれない。現代日本において、戦国武将のようなカリスマ性のあるリーダーが沢山居る訳ではありませんし、仮に居たとしても、あまりにグローバル化し、複雑化し、未来が予知しにくい時代に将来の正解を知り、組織を自ら意のままにリードしていくのは至難の業でもあります。

ロータリー戦略計画では、ロータリーの5つの中核的価値観が示されています。そのうちの一つがリーダーシップであり、ロータリーでは会員一人ひとりがリーダーシップを磨き上げ、それを身につけ、地域社会の問題に取り組んでほしいと訴えています。それではロータリーが求めるリーダーシップとは具体的に一体どのようなものでしょうか。リーダーシップの歴史を振り返りながら、一緒に考えてみたいと思います。

最近、第2次世界大戦における日本の敗戦の原因を分析した、『失敗の本質』が注目されています。同書の主張の核心は、日本が日清、日露戦争の成功体験に固執し、大東亜戦争中一貫して日本軍は学習を怠った組織であったということでした。日本が敗戦した理由は、作戦失敗の経験から学ぶことや現場からのフィードバックを受け入れて生かすシステムが一切は働かなかったこと。また、理性的な判断が、情緒的な精神的な判断に押し切られ、全員が流されてしまうと言う空気に支配されてしまったことであるとされています。これに対して、アメリカ軍は、マレー沖海戦で、当時のイギリス海軍の誇る最新鋭艦レスパルとプリンス・オブ・ウェールズが日本海軍の航空部隊によって撃沈されたと言う事実から、航空主兵への転換を素早く行ったと言われています。まさに、論理実証主義に基づく戦略策定のプロセスを取ったのです。

前置きが長くなりましたが、日本の組織においては、あまりリーダーシップのあり方と言うことについて深く考えてこなかったことが根底にある

のではないだろうかと思います。Oxford English Dictionaryの注釈によれば、リーダーと言う言葉は14世紀に確立しましたが、リーダーを概念的に捉えるリーダーシップと言う言葉自体は、19世紀中ごろになってはじめて広く用いられたとのことであり、初めは、軍事国家プロイセンの数万人の軍隊を、参謀総長、参謀本部が頭脳となって、手足のように動かす仕組みであり、電信機を使って全軍に指令を出し、司令官から直属の部下、更に下に伝えました。部下は上司の命令だけを聞き、それに従います。このような中央集権的に組織を支配するリーダーシップ（リーダーシップ1.0）が最初でした。

このリーダーシップのやり方を産業界に持ち込んだのは、有名なヘンリー・フォードであり、職人が一人で一からすべてを組み立て完成させる生産方式を簡素化して、流れ作業で単純な工程のみの繰り返しの工程の組み合わせに変えました。そのための管理手法として中央集権型のリーダーシップが用いられました。

その次に現れたリーダーシップは、1970年ころに現れた調整者としてのリーダーシップ（リーダーシップ1.5）でありました。この場合のリーダーの役割は、組織の価値観を提示し、共有し、組織全体が一体化し、組織文化を醸成し、組織の構成員に一員として働く意味を提供する調整役でもありました。そして、それは、かつてジャパン・アズ・ナンバーワンと言われた日本型経営のリーダーシップそのものでもありました。しかし、このリーダーシップも、「滅私奉公」という言葉に代表されるように、個を否定し組織への依存度があまりにも高まる風土を醸成し、次第に組織の活力は失われていきました。また組織に対するコミットメントの行き過ぎは、外部からの評価よりも内向きの組織論理が全てにおいて優先するようになり、企業倫理の問題にまで発展していきました。

バブル崩壊の危機後の1990年代には、変革者のリーダー（リーダーシップ2.0）が登場することになりました。このタイプのリーダーは、組織の方向性を示し、大胆に組織の対象領域や組織の再編成を行い、競争や学習を生み出し、組織の構成員の流動化や活性化により組織を変革することにありました。しかし、カリスマ性の強いこのリーダーシップも、その強さゆえにリスクが伴いました。リーダー

はビジョンや戦略を与え、成功事例から、徹底的な既存知識の共有と活用をしますが、破壊的なイノベーションには対応しにくいものでした。また、救世主願望が強く過剰に期待を寄せるために構成員が受け身になり、意思決定のスピードが遅くなりました。そのため、イノベーションや知恵の想像には適しません。また、カリスマリーダーはすべて正しい判断を下すと限らず、リーダーの判断間違いは結果的に組織に致命的な損害を与えることになりました。

また、アメリカではエネルギー危機、高失業率、環境問題などが差し迫った問題として意識され、真の豊かさとは何かと言うことを人々は真剣に考え出したのです。そして、数字や結果だけでなく、心や精神性へ重点がシフトしていくのです。目標を達成するという義務が生じる「約束」よりも、お互いに向き合うことによって結ばれるエンゲージメント「絆」に重点がシフトしていきました。（コミットメントからエンゲージメントへ）

そして現在、支援型のリーダーシップ（リーダーシップ3.0）が登場することになります。かつてのような革新的なイノベーションが次々と生まれにくくなった現在、リーダーの役割は、一人ひとりのメンバーと向かい合い、動機付け、主体性を持って自律的に働くように支援することです。それは単に組織内に留まらず、外部も含めて能力のあるものを集め、試行錯誤の中で新しい価値観創造を行っていく必要があるからなのです。

それはいかに組織が成果を挙げるかという方法（How）を知っていることよりも、地球に対して人類に対して何をすべきか（What）を追求することが組織を持続可能な存在にするために必要です。そして、そのためのリーダー育成法、リーダーシップのあり方が必要だと言うことではないでしょうか。組織全体に働きかけ、ミッションやビジョンを共有し、コミュニティを涵養すると同時に、個人個人とも話し合い、オープンコミュニケーションを取り、働きかけて、組織や個人の主体性、自立性を引き出す。組織全体をそのような場として整えるのです。

エクセレントカンパニーの共著者である、トーマス・ピーターズは「リーダーシップという複雑な概念は一言で言い表すのは難しいが、強いて言えば、それは『信頼』である」と述べています。

ドラッカーは、『信頼すると言うことは、リーダーを好きになることではない。常に同意できると言うことでもない。リーダーの言うことが真意であると確信を持つこと。それは真摯さ（Integrity）という誠が古臭いものに対する確信である。リーダーが公言する信念とその行動は一致しなければならない。少なくとも矛盾してはならない』と述べています。自身に対してリーダーシップを発揮する人のみが、他者に対してもそれを発揮できるのです。自分に対してリーダーシップを発揮していない人が他者に対してリーダーシップを発揮しようとしても、それはマネジメントになってしまいます。

そして、他者とは組織の部下だけではなく、上司も組織も、また外部の利害関係者、社会や国家などの全てが含まれます。別の言葉で表現すれば、「近江商人の三方よし」と言うことになります。その根底にあるのは、奉仕の精神であり、奉仕することによって、顧客や世間との信頼関係が生まれると言うことなのです。つまり、『リーダーシップとは自分が率いる人々のために献身的に身を粉にして働く奉仕者になることであり、人生の喜びや苦しみを分かち合うことなのだ』（サウスウェスト航空 創業者 ハーブ・ケレハーの言葉）ということになります。言い換えれば、リーダーシップにおける一番の根本にある人々の求心力、それは、対価ではなく一方的に相手に与え続ける良き何かであり、愛であり、贈与なのだということです。だから人の成功を助けることがリーダーシップであり、それは頭と心と腹で理解する必要があります。グローバル化した現在においては、強力な指揮命令でのリーダーシップのみで永続的な成長発展を続けることは難しい。だからこそ思いの世界で一步も二歩もリードしないと、健全で持続可能な成長を遂げることは難しいということではないかと思います。

私たちのロータリーにおいて、リーダーは組織の一番下にいて組織を支えるイメージであり、時には外部の人の力を借りてクラブ全体に奉仕することになります。またロータリーのミッションやビジョン、クラブの目標を共有することで組織の一体感を涵養し、同時に、個々のメンバーともコミュニケーションを保ち、メンバーのやる気や自律性を引き出すことが求められます。ロータリーの例会はそのようなメンバーの自律性ややる気を引き出す「場作り」と

いうことではないでしょうか。このようなリーダーシップを認識し、学ぶことがロータリーのリーダーシップ研修であり、これは単にロータリーだけではなく、会社を始め全ての組織に共通する重要な価値観であると感じています。

このリーダーシップは誰でもどこでもとれる肩書きは関係なく、発揮できるものなのです。ある場面ではある人がリーダーとなり、皆はフォロワーとなる。あるときはまた別の人がリーダーとなるこういった横型のリーダーシップが現代に求められるリーダーシップなのだろうと思います。ロータリーでは毎年会長はじめ役員が交代します。それぞれの会員がその与えられた役職で影響力を発揮していく、これがロータリーのリーダーシップなのだろうと思います。

私たちの中核的価値観であるリーダーシップをこんな風に考えてみてはいかがでしょうか。

まとめ

リーダーシップとは、

- ・リーダーシップは、物事を正しく行動すること（マネジメント）ではなく、何が正しいかを決めること。
- ・リーダーシップは決して誰がリーダーかと言う意味ではなく、混とんが止まって、人々が一つの方向に向けて共に協力して行動できるように、理念を設定して、良き組織文化を創ること。
- ・横型リーダーシップは、組織を構成する各人の意識と共通の目標を大事にして、権力ではなく、自発的に横のつながりで仕事をしていくことを特徴としている。
- ・横型リーダーシップを広げるためには、まず最初に教育が必要です。横型リーダーシップには理論があり、技術があり、リーダーシップの進め方があります。
- ・チームワークを大切にする価値観と態度です。

（引用文献：小杉俊哉 リーダーシップ3.0）

ロータリーの歴史

第9回 東京ロータリークラブの誕生まで

ロータリアンになった最初の日本人

日本におけるクラブナンバーワン・東京ロータリークラブは、1920年（大正9）10月20日、東京丸ノ内の銀行クラブという古色蒼然たる建物で、実力百万石の超一流の実業家24名によって創立されたのであります。初代会長は米山梅吉、初代幹事は福島喜三次でした。

人格的にも立派な大実業家ばかりの集まりでしたが、ロータリーのことはよく判っていませんでした。月一回の例会も碌に集まりません。例会は毎月一回、第二水曜日でありましたが、年末年始は休会にしたりして、真面目にロータリー活動をしていなかったのです。

日本にロータリー運動をもたらすきっかけを作ったのは福島喜三次です。福島は一ツ橋大学を卒業後三井物産に入社。1905年（明治38）に渡米、ニューヨーク、オクラホマ、ヒューストンを経て、1912年（明治45）頃ダラスの三井物産の現地法人 Southern Products 社の次席に就任しました。既に同社のウィリアム William がダラスクラブの会員になっていたため、福島は1915年頃、アディショナル正会員 Additional member として、ダラスクラブに入会します。その後ウィリアムが、第一次世界大戦の勃発によってドイツに引き上げたので、正会員として1920年まで、同クラブに在籍した最初の日本人ロータリアンです。

ところで、社長の福島さんとウィリアムとは職業分類が同一でありますから入会できない筈ですが、一業一会員制には、1915年以降アディショナル正会員の制度が出来ており、同一職場における共同経営者を、一人だけ入会させることができるようになっていきます。従って福島さんはこの原則の適用によって、ダラスクラブに入会出来たのであります。福島さんは日本人ロータリアン第1号であると同時に、日本人ロータリアン・アディショナル正会員第1号でもあったわけであります。

三井物産は、1911年（明治44）9月1日、ヒュー

ストンに Southern Products Co.（南部物産）という現地法人の子会社を設立した。この現地法人の初代社長は、藁谷英夫（オクラホマの最初の出張員）で、次席は福島でした。福島が30才になるかならないかの時のことでした。この現地法人は多数の米人社員と一部のドイツ人を備入れ、着実に成績を挙げていきました。それからすぐの1912年7月、これをダラスに移しました。ダラスは米国南部の中心都市であり棉花の集積地でした。

なお1920年（大正9）4月15日、三井物産棉花部が独立して東洋棉花株式会社が設立された際、この Southern Products Co. の株式は、三井物産から東洋棉花に引き継がれました。このときの資本金は50万ドル（設立時10万ドル）。この Southern Products Co. は1925年5月、資本金を50万ドルから30万ドルに減資し、その後の昭和2年8月解散しました。一方東洋棉花は1924年8月、ダラスに資本金100万ドルで Southern Products Co. とは別の Southern Cotton Co.（南部棉花）という新会社を設立しました。

米山梅吉とロータリーの出会い

このような状況下でテキサス州ダラスにおいて1918年（大正7）の元日が迎えられた。そしてここダラス福島の家で2人が邂逅するわけである。米山は東部のニューヨーク（もしくはワシントン）からダラスに向かった。途中の東部地方は大雪であつたことであろう。米山途上の句に「雪千里」とある位である。このとき米山49才、福島36才である。

米山と福島は1918年の元旦、ダラスで邂逅するわけであるが、一体米山はなぜダラスまで赴いたのであろうか。ニューヨークもしくはワシントンとダラスは、決して目と鼻の先ではない。直線距離でも2,000kmである。当時の交通機関の状況では、どんなに少なくとも往復で3日は費やすであろう。しかも日賀田使節団一行は、12月25日にニューヨークの本部を引き払ってワシントンに向かい、1918年元旦をそこのショーアハム・ホテルで迎えている。

ダラス行は使節団とは別の米山だけの単独行と思われる。

話変わって、福島の下にドイツ人のウィリアムがいました。ウィリアムはダラス・ロータリークラブの会員でした。1917年（大正6）にアメリカが第一次世界大戦に参戦したために、ウィリアムは敵国人としてアメリカ国内で営業活動ができなくなり、ドイツへ帰るためにダラスクラブを退会しました。そこでダラスクラブは、ウィリアムの後任として福島さんを正会員に選出しました。これは日本人ロータリアン正会員第1号であります。

ちなみに1918年11月には第一次大戦が終わり、その後をうけて福島はダラス・ロータリークラブの会員となった。「東京ロータリークラブ50年のあゆみ」によれば、福島は1919年10月より2年程前に会員となった。これからすれば福島が会員となったのは1917年（大正6）の秋ころである。

米山が1918年（大正7）の正月を福島の家で過ごした時、ロータリーの話が出たかもしれない。しかしこのことは憶測の範囲を出ない。ただ米山が福島からロータリーの話聞いたとすれば、福島のロータリーの話に興味をそそられたに違いない。もともとは奉仕についての体質を宿していた米山の琴線に触れるものがあつたであろう。米山は1914年には、既に「新隠居論」を著している。「新隠居論」の言おうとするところは、世の中で信用され貴重な経験をした老人、なかんずく実業界の元老といわれる人は、よろしく自分の仕事を若い人に譲って、市町村の世話、学校、病院など公共の事業に尽して欲しいというものである。米山は実際にも自らその実践をしている。

ところで更に、福島には不思議な因縁があり、彼は1936年（昭和11）に三井物産の上海支店長を左遷によって本社に召喚せられ、三井合名の理事に任命されたのですが、その時に東京クラブに入会した資格が Past service member でありました。これは日本人ロータリアン Past service member 第1号でもあります。したがって福島は、ロータリアンの会員資格四種類の内、正会員、Additional、Past service、の三つの資格の日本人ロータリアン第1号を独占することになったわけです。なお福島の帰国後に、島某が彼に代わって入会したという記録が残っています。喜三次の読み方については、「きそじ」「きさじ」の両説がありますが、東京クラブの会員名簿には、英語で KISOJO と記載されていますので、「きそじ」が正しいものと思われます。

米山梅吉との出会いは、1918年10月に日賀田種

太郎男爵を団長とする政府派遣財政経済委員の一員として渡米した米山梅吉（三井銀行役員）が、1919年の正月をダラスの福島宅で過ごした時です。この訪米に際して、米山は「メキシコの境まで咲く枯野花」「テキサスの野の東や初日の出」等の句を詠んでいます。その際案内役を務めた福島からロータリーに関する話を聞いて、関心を寄せると共に、アメリカの幾つかのクラブを視察した模様です。

1920年1月に帰国した福島は、アルバート・アダムス Albert Adams 国際ロータリークラブ連合会会長から、年度内に日本にロータリークラブを設立してもらいたいという委任を受けて、米山梅吉と共に奔走しますが、年度末までに創立に必要なチャーターメンバーの数を集めることができず、期限切れとなってしまいました。

ところで1915年（大正4）当時、三井物産としてはアメリカの市場を大変重視して、アメリカに3名のエリート社員を配属し、これらの社員は本社の決済を得ないで取引が出来る権限を与えられて居たのです。実はその一人が福島でした。

ところが福島は第1次世界大戦が1918年に突如として終結したために、商品の買い付けに見込み違いが起り、三井物産に対して莫大な損害を与えてしまいました。そこで当然の事ながら左遷の問題が起り、東京の本社は1919年12月、福島に対して召喚命令を出したのです。その結果福島はダラスクラブを退会することになり、その送別会の時に、時の会長が福島に対して、東京にロータリークラブを設立してはどうかと持ち掛けたのであります。福島は大変当惑しましたが結局承諾することになりました。ダラスの会長は大変喜んで、ガバナーを経由してRI理事会に何書を出しております。その結果1920年6月30日までに東京にロータリークラブを設立することの全権委任（今日の特別代表の権限）が福島に与えられたのであります。

東京ロータリークラブ設立

福島は1920年（大正9）1月頃日本へ帰り、早速作業に取り掛かろうとしました。ダラスでは東洋綿花の社長でありましたが、東京へ帰れば社長ではありません。兵隊の位で言えば陸軍中尉位のものでありますから、自分の力では何ともならない訳なのです。そこでこれは大物の実業家に頼むほかないと考えて、米山梅吉に頼み込んだのであります。

しかし米山梅吉はロータリーの事がよく判っていなかったために、設立の作業は遅々として進みませんでした。そこで福島喜三次はRIに対して期限延長の願書を出しました。これを見てRIは不安を感じて、期限延長を認める代わりに条件を提示してき

ました。それはロータリーの手続きに通曉しているWilliam L. Johnstonを共同特別代表とするならば、期限延長を認めるというものでありました。そこで主だった人選については米山梅吉、RIの手続きについてはJohnston、その他の雑務については福島喜三次。この様にして1920年10月20日東京丸の内の銀行クラブにおいて、東京ロータリークラブが創立されるに至るのです。

<外国拡大委員会報告>

長年にわたりテキサス州ダラス・ロータリークラブの会員であった福島氏に、日本の首都東京における組織化の権限が与えられた。同氏は日本における最大企業の一つである三井と親密な関係を持っている。(1920年アトランティックシティ国際大会報告)

エスタス・スネデコルEstes Snedecor 連合会新会長は、米山と福島に再度委任状を送ると共に、パシフィック郵船横浜支店長ジョンストンW. L. Johnstonにクラブ拡大の世話役に任命して拡大の協力を命じました。1920年9月1日に設立準備会が開かれ、同年10月20日、チャーターメンバー24名が集まって、銀行クラブで創立総会が開催され、東京クラブが誕生しました。なおRIから正式に認証されたのは1921年4月1日(登録番号852)です。

<東京・日本の加盟について>

東京ロータリークラブ加盟に関するすべての業務は完了し、1921年4月1日を以って連合会の加盟クラブであることを宣言した。この数ヶ月の間に極東を訪問したロータリアンからの報告によれば、このクラブは東京において影響力を及ぼす実業人によって構成され、会員の間にロータリーに対する情熱が育っているとのことである。(事務総長書簡1921年3月25日)

<東京ロータリークラブ創立会員>

長年にわたりテキサス州ダラス・ロータリークラブの会員であった福島氏に、日本の首都東京における組織化の権限が与えられた。同氏は日本における最大企業の一つである三井と親密な関係を持っている。(1920年アトランティックシティ国際大会報告)

エスタス・スネデコルEstes Snedecor 連合会新会長は、米山と福島に再度委任状を送ると共に、パシフィック郵船横浜支店長ジョンストンW. L. Johnstonにクラブ拡大の世話役に任命して拡大の協力を命じました。1920年9月1日に設立準備会が開かれ、同年10月20日、チャーターメンバー24名が集まって、銀行クラブで創立総会が開催され、東京クラブが誕生しました。なおRIから正式に認証されたのは1921年4月1日(登録番号852)です。

初代会長には米山梅吉、幹事には福島喜三次、理事に伊東米次郎、樺山愛輔、小野英次朗が就任しました。

<東京ロータリークラブ・創立会員>

深井 英五(日本銀行)	藤野 正年(日本製麻)
福島喜三次(三井物産)	藤田 譲(明治生命)
藤原 俊雄(内外興業)	堀越善重郎(内外商会)
星 一(内外製薬)	井上敬次郎(東京市電気局)
磯村豊太郎(北海道炭鉱)	伊東米治郎(日本郵船)
岩井重太郎(日興証券)	樺山 愛輔(日本製鋼)
梶原 伸吉(正金銀行)	岸 敬次郎(芝浦製作所)
北島 亘(北島商会)	倉地 誠夫(三越)
牧田 環(三井鉱山)	長野宇平治(建築技師)
小野英次郎(興業銀行)	佐野 善作(商科大学)
清水 釘吉(清水組)	対馬健之助(東京日々)
和田 豊治(富士紡)	米山 梅吉(三井銀行)

その後1921年7月13日の理事会において、チャーターメンバーに4名が加えられて、東京クラブのチャーターメンバーは28名となりました。東京クラブ創立における、ジョンストンの果たした役割は極めて大きく、1921年彼の帰国に際して名誉会員に推薦しています。福島は僅か二回例会に出席しただけで、1921年3月に大阪へ転勤になり、大阪クラブの設立に関与した後、上海クラブ会員を経て、1932年10月、日本最初のパストサービス会員として東京クラブに再入会し、1939年には副会長を務めています。

ほとんどが財界の大御所で占められていたことです。エリート中のエリートから選ばれた大企業の社長や重役といった顔ぶれが並んでします。この最初の人選が前例となって、戦前の日本のロータリーは功成り名を遂げた財界人が入るクラブという錯覚を生みだし、更に社会的地位とロータリアンの質とを混同する過ちを冒すこととなります。

米山梅吉の方針によってロータリーの奉仕哲学の探究に真摯な態度で取り組み、個人奉仕の原則もよく理解されていた反面、クラブ組織としての管理運営はあまり省みられなかった模様です。当初は例会も月一回であり、かつたびたび流会し、出席率も悪く、また規約に対する関心も薄かったと言われていました。

(引用文献：田中毅PDG ロータリーの歴史 日本編)

(引用文献：深川純一PDG 純ちゃんコーナー
ロータリー情報)

(引用文献：米山梅吉の発言)



ロータリー情報

ポリオ撲滅活動の経緯



2018年6月末ポリオを世界から撲滅することを目標としています。長年にわたる努力が実り、ロータリーと協同団体は、ポリオの撲滅にあと一歩というところまでたどり着きました。しかし、完全な撲滅を果たすには、今、すべての力を振り絞らなければなりません。私たちは、歴史的な機会を迎えているのです。

ポリオ撲滅活動の進展を報告

2016年8月、ポリオ症例ゼロを2年間維持したかと思われたナイジェリアで新たなポリオ発症が確認され、ロータリーをはじめポリオ撲滅に取り組んできた諸団体にとっては大きな打撃となりました。これらの症例は、最近までボコハラムの支配下にあったナイジェリア北部のボルノ州から報告されたものです。世界保健機関（WHO）は、この地域に5年間、ウイルスが存在していたと見ていますが、世界的にはポリオ症例数は確実に減っています。

クルーガー氏との対談Q & Aで、米国疾病対策センターCDC所長のトム・フリーデン氏がポリオ撲滅の進展について語りました。「現在、ポリオ症例数も、発症者がいる地域の数も、歴史上最も少なくなっている」とフリーデン氏。全世界の症例数は、今年わずか27件。昨年同時期での数は51件でした。

ナイジェリアでの新たな症例を受け、ロータリーとパートナー団体は、ナイジェリア政府、チャド、カメルーン、中央アフリカ共和国と協力してさらに活動を強化。経口ワクチンと不活化ワクチンの両方を使って約100万人の子どもへの予防接種キャンペーンを緊急に実施しました。

著名人も応援

パラリンピック選手であるポリオサバイバー、デニス・オグベさんもイベントに出席し、自身の生い立ちについて語りました。3歳のとき、ナイジェリアの自宅近くにあったクリニックでマラリアの治療を受けていたとき、ポリオに感染しました。2000年のシドニーと2012年のロンドンのパラリンピックに出場したオグベさんですが、自身が体験する最も難しいチャレンジは「世界からポリオをなくすこと」だと話しました。

トーク番組「What's Trending」の司会者、シーラ・ラザーさんもイベントに参加し、世界中の人びとが投稿したソーシャルメディアの内容を紹介。さらに、世界中で3,000以上の「世界ポリオデー」イベントが行われていることも伝えました。

さらに今回、ロータリーがユニセフの支援を受けて制作したバーチャルリアリティ映像が初公開されました。インドとケニアの街中にあるような感覚が得られるこの映像は、ポリオサバイバーの体験をリアルに伝えています。ユニセフのポリオ撲滅担当ディレクター、レザ・ホサイニさんはこう話します。「これは、ポリオによって人生が大きく変わった人びとの様子を伝える優れた技術です。...ポリオ撲滅活動がどこでどのような人びとを救っているのかを、実際に見てもらおうことが大切なのです」

イベントの最後に、ジャム会長はこう語りました。「私たちはこの取り組みを30年以上前に始めました。...以来ずっと、あきらめずに全力を注いできました。そして今、この活動を成し遂げる日が近づいています」

ここで少し、ロータリーのポリオ撲滅活動の経緯を振り返りたいと思います。

(経緯)

- 1979年 最初の3-Hプロジェクトとして、フィリピンにおける600万人の子供たちを対象にしてポリオの予防接種を行う5カ年間の活動が開始されました。
- 1985年 国際ロータリーが、公共保健推進計画の民間部門支援としては世界初、しかも最大規模となるポリオ・プラス・プロジェクトを開始し、その資金として1億2,000万ドルの寄付を誓約しました。
- 1986年 理事会とロータリー財団管理委員会は、開発途上国の子供にポリオその他の疾病の免疫を与える「ポリオプラス」という20カ年計画を採択した。
- 1988年 当初の寄付目標を2倍も上回る2億4,700万米ドルが集まりました。ロータリーの活動がきっかけとなり、世界保健総会が2000年までにポリオを撲滅するという決議を採択し、世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI: Global Polio Eradication Initiative）の発足への道を開きました。世界ポリオ撲滅推進計画は、国際ロータリー、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病予防センター（CDC）が主導団体となって活動をしている組織です。
- 1995年 寄付額5億8,100万ドルに達しました。規定審議会において2000年までにポリオを撲滅し、2005年に撲滅宣言をだすことが採択されました。
- 2000年 西太平洋地域がポリオ無発地域と宣言されました。
- 2002年 ヨーロッパ地域がポリオ無発地域として宣言されました。
- 2004年 規定審議会において、ロータリーの長期計画が採択され、ポリオ撲滅が第一目標となりました。
- 2007年 寄付額6億2,000万ドルに達しました。また規定審議会でもポリオの撲滅を国際ロータリーの最優先の目標であることを承認し、確認する件が採択されました。
- 2007年 11月 ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団が1億ドルを寄付しました。これに対して国際ロータリーは1億ドルの追加寄付をすることが条件づけられました。
1クラブ当たり1000ドルを3年間寄付すれば1億ドルの目標を達成できるとして、2008年7月1日から2010年12月31日まで「ロータリーの1億ドルのチャレンジ」の募金運動が公式に実施されました。
- 2009年 1月21日 国際協議会の席で、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団は、さらにさらに2億5,500万ドルの追加寄付（合計、3億5,500万ドル）をしたことを発表しました。それに対してロータリー財団は「ロータリーの1億ドルのチャレンジ」が2012年6月30日までに2億ドル集めることに同意し「ロータリーの2億ドルのチャレンジ」（Rotary's US\$200Million Challenge）となった。最終的には2億2,870万ドルを集め目標は達成しました。
- 2011年 10月24日 世界ポリオデーに、日本政府はパキスタンとアフガニスタン予防接種のために9,000万円の補助金を贈ると発表しました。



2012年 2月25日 ポリオ・サミットでWHOは野生株によるポリオ発生のリストからインドを除外することを発表しました。

2012年 5月 世界保健総会で、ポリオ根絶は世界的な公衆衛生上の緊急事態であると宣言する決議が採択された。その後、3カ国の常在国（パキスタン・ナイジェリア・アフガニスタン）は、それぞれの国家元首がポリオ緊急行動計画を開始しました。

2012年 6月30日 ビル・アンド・メリンダ・ゲイツの合計は3億5,500万ドルに対して、また、英国政府も追加の1億5,000万ドル（1億ポンド）、ドイツ政府もさらに1億3,000万ドル（1億ユーロ）を、世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）に寄付しました。

2013年 6月25日 残り15億ドル調達の一助として、リスボン国際大会でロータリーとビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団はポリオ撲滅活動に関するパートナーシップの拡大を発表しました。2013年から2018年までの5年間、ロータリーがポリオ撲滅に寄せる寄付に対して、ゲイツ財団が2倍の額（年間3,500万ドル）を上乗せする。

2014年 1月 インドがポリオ無発生地域と宣言されました。ポリオ常在国は残り3カ国（ナイジェリア・パキスタン・アフガニスタン）となった。

2014年 10月 ロータリーがポリオ撲滅活動を開始した1979年以来、ロータリーが寄付した資金は実に120億ドル（約1,292億円）に上ります。

2015年 7月 ロータリー会員は、これまでに6億8,850万ドル（約854億円）をアフリカ全体でのポリオ撲滅活動に寄付し、ナイジェリアだけでも2億ドル（約248億円）を投じてきました。また、予防接種を通じて子どもたちの健やかで平和な未来を築くために、アフリカに限らず世界中の会員が、多くの時間を撲滅活動に捧げてきました。

ロータリーによるポリオプラス・プログラムは、ポリオの枠組みを超えて変革的な影響を生み出してきました。世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）で築かれた保健インフラは、ナイジェリアでの野生型ポリオ発症数を2014年に90%減少させただけではありません。致死率の高いエボラ出血熱が流行したときも、この保健インフラによって米国にも勝る迅速さで対応がなされ、わ

ずか90日間で感染を収束させることに成功。まさに「世界レベル」の医療対応だったと、世界保健機関（WHO）から称賛を受けました。

2016年 規定審議会で、すべてのポリオウイルスの世界的撲滅の認定という目標がRIの最優先事項であることを承認されました。また、その認定が達成されるまではほかのいかなる全組織的プロジェクトも採択されるべきではないことを支持し、後続の規定審議会により承認されるまではほかのいかなる全組織的プロジェクトも採択しないことを確認することも確認されました。

2018年 6月末 ポリオを世界から撲滅することを目標としています。2018年までの撲滅をめざす活動では、25億人の子どもに投与された経口ワクチン（OPV）を補完するかたちで、注射による不活化ワクチン（IPV）も新たに導入されます（OPVの使用はポリオが撲滅されるまで継続）。

現在、ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団とのパートナーシップにより、2018年まで毎年、ロータリーからポリオ撲滅に寄せられる寄付に対して、2倍の資金がゲイツ財団より上乗せされます（上乗せの対象となるロータリーからの寄付は、各年3,500万ドルまで）。

2013年に確認されたポリオ感染はわずか416件。毎年350,000人が感染していた撲滅活動開始当時の1988年から大きく減少しました。

世界120万人の会員から成るボランティアのネットワーク、ロータリーは、地域社会を支援する草の根の活動から、全世界でポリオを撲滅する国際的取り組みまで、200以上の国と地域にあるロータリークラブを中心に奉仕活動しています。1988年、ロータリーは、WHO、ユニセフ、CDC（米国疾病対策センター）とともに、世界ポリオ撲滅推進計画を開始しました。

2013年に確認されたポリオ感染はわずか416件。毎年350,000人が感染していた撲滅活動開始当時の1988年から大きく減少しました。

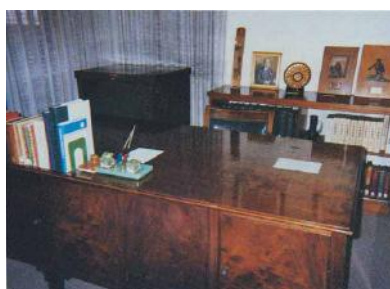
1988年には35万人いたと推計されるポリオの患者は99%以上減少し、2015年には報告者数が74人、2016年には37名となりました。この減少は、疾患を撲滅するための努力が世界中で行われた結果です。

米山梅吉記念館便り

シリーズ⑦ 米山梅吉の横顔

米山梅吉が社長を務めた三井信託株式会社は大正13年3月創業です。当時、信託は馴染みが薄かったのですが、信託業は預けた人のために預かったものを管理運営して利益を還元する奉仕（サービス）であるとお考えだったようです。

当時の思い出として後に信託の社長になられた林賢材さんは「信託会社は営利会社ではあるが、サービスを主眼とせねばらぬと度々諭された。後年三井報恩会の理事長として幾多の社会事業を育成されたことを思い、米山さんは社会事業家としても有数の方であった」と書かれています。三井信託での10年間を終え、66歳から三井報恩会の理事長に就任しました。



三井信託銀行社長当時、米山梅吉が使用していた机と椅子（三井信託銀行）現在は米山記念館ロビーにあります。

米山梅吉関連図書の紹介



B5判 記念館35周年記念誌
本文268ページ/2,500円

米山梅吉の跼音 記念館刊

米山梅吉の「生い立ちと人となり」「ロータリーとのかかわり」「記念館の歴史」などが詳細に解説されています。

資料編としては、米山梅吉の会議や大会での挨拶や講演、ロータリー月報やラジオ放送の内容なども掲載。記念館所蔵の図書目録、年表など網羅されています。

春季例祭
ご案内

平成29年4月22日（土）午後2時～ 式典／講演会

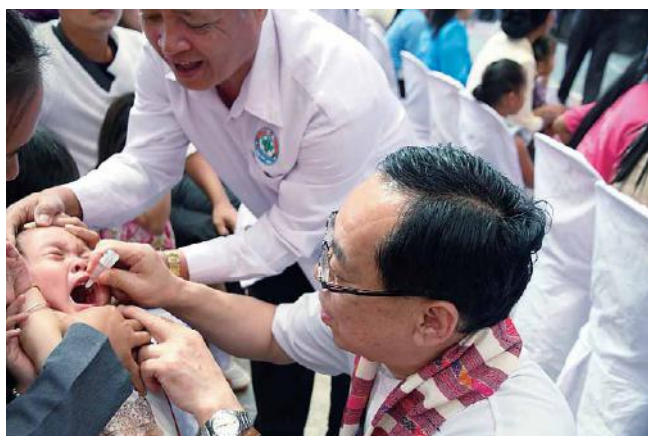
米山梅吉記念館

登録料無料 アトラクションあります。
多くの皆様ご参加ください。

地区通信

ラオスポリオミッション報告と御礼

2016-17年度 地区国際奉仕委員長
浦島 睦 (奈良東RC)



2650地区は1995年から21年間に渡り、世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務所(WPRO)と地区内ロータリアンが自ら現地に赴き汗を流しポリオミッションとして現地の子供達にポリオワクチンの投与を行って参りました。

そして、財団100周年である今年度は、刀根ガバナーの御英断により地区事業として、この事業を行う事になりました。

今回のミッションは地区内から62名ものメンバーにご参加いただき、ラオスにてポリオ撲滅活動と教育支援を2つの柱として行いました。

ポリオ撲滅活動では、ラオス保健省、WHOの協力によりヴィエンチャン県ファン郡バスン村、サイニャブリ地区サイニャブリ総合体育館2か所の会場に於いて各1000人以上の来場者の中、合計約900人の子供達にポリオワクチン経口投与を行いました。

ラオスでは一部地域に於いてワクチン由来株I型の

流行がありましたが、今回の活動の成果もあって、現在は、終息しているとの報告が保健省、WHOよりありました。

そして、もうひとつの柱である教育支援ではJICAの指導の下、バンクン教員養成短大、ラオス柔道連盟、サイニャブリ子供支援センター、サイニャブリ教育スポーツ局の4か所に於いて生活必需品、スポーツ用品、文具等、子供達の為に充実した支援物資の提供を行い、各会場では物資を待ち望む沢山の子供達が我々を満面の笑顔で迎えてくれました。

また、ヴィエンチャンではポリオ調印式及びロータリー主催懇親会を開催し、ラオス保健大臣Dr. Bounkong Syhavong、在ラオス日本大使の引原毅氏、WHOラオス代表Dr. Juliet Fleischl、JICA次長の牧本小枝氏を始め関係者様多数御出席の中、厳粛な調印式、なごやかな食事会となり、ラオスとの関係を深めることができました。

この様に充実した事業を行えた事は、偏に地区内ロータリアンのご好意の賜物でございます。御支援を賜り誠にありがとうございました。

RIが目指すポリオフリーは目前でございますが、今回の事業によりまた一歩前進した事は確かでございます。一日も早くその時を世界中のロータリアンで迎えられる事を願い、私の御礼の挨拶とさせていただきます。



第2650地区 2016年12月 会員数の増減および出席率表

京都府 (42クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
綾部	28	0	2	26	28	1	2	3	96.30	1
福知山	60	0	1	59	59	3	3	4	95.47	0
福知山西南	43	0	0	43	40	3	0	3	92.75	0
亀岡	30	0	1	29	29	1	1	4	100.00	0
亀岡中央	11	0	0	11	11	0	0	4	85.42	1
京丹後	29	0	0	29	29	0	0	3	87.47	1
京都	207	0	4	203	191	18	6	4	98.95	0
京都伏見	95	0	4	91	94	4	6	3	91.76	9
京都平安	23	0	1	22	23	0	1	4	80.20	5
京都東	91	0	0	91	91	2	2	3	96.38	0
京都東山	79	0	2	77	73	6	2	2	85.10	4
京都北東	25	0	0	25	25	0	0	3	82.54	1
京都城陽	33	1	0	34	32	2	0	4	100.00	2
京都桂川	30	0	0	30	29	1	0	4	86.54	0
京都北	70	0	1	69	68	3	2	3	86.38	0
京都南	233	0	4	229	230	5	6	4	91.67	0
京都モーニング	41	0	0	41	40	1	0	4	90.94	3
京都紫野	58	0	1	57	56	3	2	3	100.00	0
京都中	41	0	1	40	38	3	1	4	96.34	0
京都西	106	0	0	106	103	3	0	4	99.50	0
京都西山	20	0	0	20	20	0	0	3	100.00	1
京都乙訓	40	0	0	40	41	0	1	3	85.34	1
京都洛中	94	0	0	94	91	5	2	3	100.00	0
京都洛北	72	0	2	70	71	1	2	4	93.17	0
京都洛南	33	0	1	32	32	1	1	4	93.02	2
京都洛西	53	0	2	51	49	4	2	3	90.19	6
京都洛東	43	0	0	43	43	0	0	4	93.95	0
京都嵯峨野	23	0	0	23	23	0	0	3	71.01	1
京都さくら	25	0	0	25	26	0	1	4	85.42	8
京都西北	43	0	1	42	42	1	1	3	82.28	2
京都西南	45	0	0	45	44	2	1	4	95.13	4
京都紫竹	37	0	0	37	37	0	0	3	96.21	2
京都朱雀	36	0	1	35	34	2	1	4	83.97	4
京都田辺	20	0	0	20	19	1	0	4	97.22	3
京都山城	27	0	2	25	26	2	3	3	85.00	0
京都八幡	31	0	0	31	31	0	0	3	89.74	4
舞鶴	28	0	1	27	28	0	1	3	85.46	0
舞鶴東	38	0	0	38	37	1	0	4	83.44	4
宮津	34	0	0	34	34	1	1	3	91.88	0
園部	23	0	0	23	23	0	0	4	90.09	0
宇治	40	0	0	40	39	1	0	4	94.69	1
宇治鳳凰	48	0	1	47	47	1	1	4	93.70	6
小計	2,186	1	33	2,154	2,126	82	52	3.5	91.06	76

奈良県 (14クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
あすか	55	1	0	56	56	1	1	4	90.91	0
五條	33	0	0	33	34	1	2	3	94.10	1
平城京	24	0	2	22	24	0	2	4	83.78	2
生駒	23	0	2	21	22	1	2	3	84.06	2
橿原	46	0	0	46	46	0	0	3	86.91	1
奈良	126	2	0	128	125	4	1	4	91.46	4
奈良東	37	0	2	35	38	0	3	3	95.55	0
奈良西	43	1	2	42	43	2	3	4	86.38	2
奈良大宮	67	0	1	66	68	0	2	4	92.00	0
桜井	18	0	0	18	15	4	1	3	91.00	4
大和郡山	52	0	0	52	52	0	0	3	84.89	2
やまとまほろば	31	0	0	31	32	1	2	4	89.50	3
やまと西和	25	0	0	25	24	1	0	3	84.51	2
大和高田	98	0	0	98	95	3	0	3	95.89	4
小計	678	4	9	673	674	18	19	3.4	89.35	27

福井県 (19クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
福井	129	2	0	131	125	9	3	4	81.92	11
福井あじさい	64	0	2	62	64	1	2	3	88.13	5
福井フェニックス	56	1	0	57	56	3	2	3	82.46	9
福井東	47	0	0	47	46	1	0	4	80.52	9
福井北	106	1	2	105	105	4	3	3	69.19	10
福井南	34	0	0	34	35	1	2	2	80.28	1
福井西	34	1	0	35	32	3	0	3	82.79	3
福井水仙	22	0	0	22	22	0	0	4	75.00	2
勝山	29	0	0	29	28	1	0	3	87.36	4
丸岡	38	1	2	37	34	5	2	3	84.15	0
三国	32	0	0	32	32	0	0	4	91.12	4
大野	41	0	0	41	40	1	0	3	100.00	2
鯖江	33	2	0	35	32	3	0	3	84.50	3
鯖江北	13	0	0	13	13	0	0	3	76.92	0
武生	58	2	1	59	57	4	2	3	73.83	3
武生府中	30	0	0	30	30	0	0	4	100.00	0
敦賀	34	0	1	33	33	2	2	3	76.94	1
敦賀西	19	0	0	19	17	3	1	4	73.68	1
若狭	28	0	1	27	26	3	2	2	100.00	1
小計	847	10	9	848	827	44	21	3.2	83.62	69

滋賀県 (21クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
びわ湖八幡	43	0	0	43	42	2	1	4	93.61	1
五箇荘能登川	23	0	0	23	21	2	0	3	74.13	0
東近江	32	0	0	32	30	3	1	3	88.92	0
彦根	62	0	0	62	62	2	2	4	93.07	5
彦根南	66	0	1	65	63	4	2	3	87.80	0
湖南	39	0	0	39	40	0	1	4	92.29	3
草津	29	0	0	29	30	0	1	4	92.19	0
水口	37	0	1	36	37	0	1	3	94.52	0
守山	39	1	1	39	39	1	1	3	95.61	1
長浜	63	0	0	63	59	5	1	3	96.74	3
長浜東	59	0	0	59	58	3	1	3	100.00	0
長浜北	27	0	1	26	26	1	1	3	87.66	4
近江八幡	44	0	0	44	44	1	1	3	98.03	1
大津	115	1	1	115	109	7	1	3	100.00	5
大津中央	30	0	0	30	29	1	0	3	93.33	4
大津東	26	0	1	25	22	4	1	3	78.67	4
大津西	20	0	0	20	20	0	0	4	95.67	0
栗東	44	0	0	44	43	1	0	4	90.12	2
高島	44	0	0	44	44	0	0	3	100.00	2
野洲	41	0	0	41	40	1	0	4	92.62	2
八日市南	47	0	1	46	48	0	2	3	87.48	2
小計	930	2	7	925	906	38	18	3.3	92.02	39

Eクラブ (1クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
日本ロータリーEクラブ2650	49	0	1	48	50	1	3	3	100.00	5
小計	49	0	1	48	50	1	3	3	100.00	5

合計 (97クラブ)

クラブ名	前月末 会員数	入会	退会	12月末 会員数	期首 会員数	入会 累計	退会 累計	例回数	出席率 %	女性 会員数
合計	4,690	17	59	4,648	4,583	183	113	3.3	89.66	216

■表作成にあたって
 ・会員数に、名誉会員は含まれておりません。
 ・入退会者数、12月会員数および入退会者累計数は12月現在です。
 ・「期首会員数」は、平成28年7月1日入会の会員数を含みます。

国際ロータリー第2650地区 2016-17年度 12月 会員の動き

12月入会者一覧

クラブ名	氏名	職業分類
丸岡	西出 智一	建築塗装業
鯖江	熊野 正巳	不動産取引業
鯖江	松村 竜也	ダイビングスクール業
武生	橋本 勝利	旅行業
武生	西本久美子	日本料理
福井	早川 信之	情報通信設備工事
福井	白江 文夫	警備業
福井フェニックス	藤井 健二	繊維卸販売
福井西	東村 陽一	司法書士
福井北	澤田 佳夫	自動車学校
守山	殿本 勝利	ダンボール製造業
大津	石田 益世	歯科医師
京都城陽	堀井 裕司	建設業
あすか	植田 健史	エクステリア
奈良	前田 正芳	クリーニングサービス
奈良	萩本 敦士	都市銀行
奈良西	野阪 幸男	歯科医

12月退会者一覧

クラブ名	氏名
丸岡	松田美由紀
丸岡	藤本 豊
若狭	上野 清治*
敦賀	川口 英夫
武生	石本 茂雄
福井あじさい	前田 逸朗
福井あじさい	田村 貴司
福井北	小辻 正
福井北	竹村 長佑
長浜北	中嶋 亮和
守山	林 敏郎
水口	西岡 祐之
大津	松崎 逸郎
大津東	鈴木 光雄
八日市南	松村 正義

彦根南	奥山二三男
綾部	福西 均
宇治鳳凰	井上 裕介
亀岡	矢野 義雄
京都	川崎 洋嗣
京都	大川 昌男
京都	白石 成人
京都	富田 泰成
京都山城	吉本 文彦
京都山城	中岡 英文
京都紫野	高木 太郎
京都朱雀	山本 晴彦
京都中	藤田 勝也
京都東山	谷口 浩三
京都東山	辻 眞一
京都南	洲崎 和雄
京都南	松繁 洋

京都南	上仲 昭広
京都南	相馬 俊臣
京都伏見	岡田謙一郎
京都伏見	加口 雅之
京都伏見	小倉さやか
京都北	寸田 善久
京都北	今西 広
京都洛西	福岡 弘康
京都洛南	松井 鯨騰
京都洛北	増田 良明
京都洛北	房本 清次
京都西北	山下 恵三
京都平安	辻 直美
舞鶴	神原 康夫
福知山	塩見 芳朗
生駒	久保 周三
生駒	辻本 供代

平城京	田中 一彦
平城京	高井 一郎
奈良東	稲田 尚紀
奈良東	山口 清和
奈良西	齊藤 満弘
奈良西	木下 裕
奈良大宮	箸尾 文雄
日本ロータリーEクラブ2650	土生 豊彦

※名誉会員へ移行

ご逝去会員一覧

クラブ名	氏名
綾部	松田 安弘
京都洛西	山下 勝康

* 2月号月信「会員の動き」に間違いがございましたので、訂正させていただきます。 P15の11月退会者一覧 山岡景一郎様、「(誤) 京都伏見RC」を「(正) 京都西南RC」と訂正させていただきます。謹んでお詫び申し上げます。

文庫通信 (353号) <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

忘れ得ぬロータリアン (2)

- ◎「ポール・ハリスの合理的ロータリアニズム」 ポール・ハリス 2010 8p
- ◎「ポール・ハリスの言葉から」 佐藤千壽 横浜鶴見西R.C. 1976 53p
- ◎「ロータリー・クラブ」 米山梅吉 社会教育協会 1929 20p
- ◎「父 米山梅吉のこと」 米山桂三 1963 4p
- ◎「ロータリーと父 米山梅吉」 米山桂三 東京南R.C. 1972 8p
- ◎「人間米山梅吉を大いに語る (その1~3)」 米山記念奨学会 1986 [22p] (「よねやまだより」より抜粋)
- ◎「夫 福島喜三のこと」 福島朝子 1963 4p
- ◎「日本ロータリー再建の頃 (1~7) -ジョージ・ミーンズ回顧録-」 ジョージ R.ミーンズ 1976~77 [27p]
[上記申込先: ロータリー文庫]
- ◎「ロータリーへの道 三訂版」 ポール・ハリス著; 柴田實訳 成田R.C. 2011 372p
[申込先: 成田R.C. FAX (0476) 33-8786]
- ◎「ロータリアン福島喜三次傳 (日本ロータリーの曙)」 蒲原権編 有田R.C. 1986 102p
[申込先: 有田R.C. FAX (0955) 43-3140]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03)3433-6456・FAX (03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館=午前10時~午後5時 休館=土・日・祝祭日

Rotary
District 2650



Kyoto
Nara
Shiga
Fukui

国際ロータリー第2650地区

2016-17年度ガバナー 刀根 莊兵衛

ガバナー事務所●
〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町614番地 新京都センタービル5階250号室
TEL: 075-353-2650 FAX: 075-343-2651 E-mail: gov2016-17@rid2650.gr.jp